

登り窯を活用した複合型観光施設の設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1240023 馬野 大輝

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

(1) 歴史

山口県山陽小野田市は、窯業を中心に古墳時代から現在に至るまで人々の暮らしに合わせた形態に変化しながら栄えた「窯のまち」である。

古墳時代には須恵器、江戸時代は日用雑器焼成、明治時代には、セメント・硫酸瓶、平成には、ガラスを中心として栄えてきた。また、戦後までの陶瓶工場の生産量は、全国の7割を占めており、昭和20年頃の製陶業最盛期には市内に30数基の登り窯が見られた。しかし、昭和30年頃の容器の素材の変化に伴い、製陶業が衰退。各地にあった登り窯は次々と取り壊された。そのため、崩れず現在までかたちを残しているのは、「旦の登り窯」1基のみである。

(2) 「旦の登り窯」の現状

現在の「旦の登り窯」は、平成6年に市指定文化財に登録。山口県山陽小野田市の窯業（耐酸拓器製造）関連遺産として、近代化産業遺産に登録されている。1840年頃に建造されてから約180年以上が経過している。

登り窯内部空間は、横幅2m、高さ2m、奥行き7m程度の空間があり、窯数は11個である。内壁は、幾度となく炎に焼かれて赤褐色に変化し、外壁とは違う味を出している。しかし、補修・保全などの維持管理が行き届いていないため内部は立ち入り禁止である。また、登り窯周辺は葛や雑草が生い茂っており、気楽に観察することもままならない状態である。



図1 現状の登り窯（外観）



図2 現状の登り窯（内観）

2. 目的

山陽小野田市の瓶垣などの歴史的景観をつくってきた登り窯を保存することのみならず、登り窯内部の空間と窯業を楽しめる観光施設を設計し来訪者数の向上を図る。また、地域住民が日常的に交流できる広場空間・親水空間を計画し、地域の活性化を目指す。

3. 対象敷地

対象敷地は、山陽小野田市に位置する「旦の登り窯」周辺の赤く色づけをした範囲である。（図3）この登り窯がある地域は、南東方向に丘陵地が広がっている。そのため、付近を流れる有帆川の水面から登り窯までの高低差は14m程度である。



図3 対象敷地

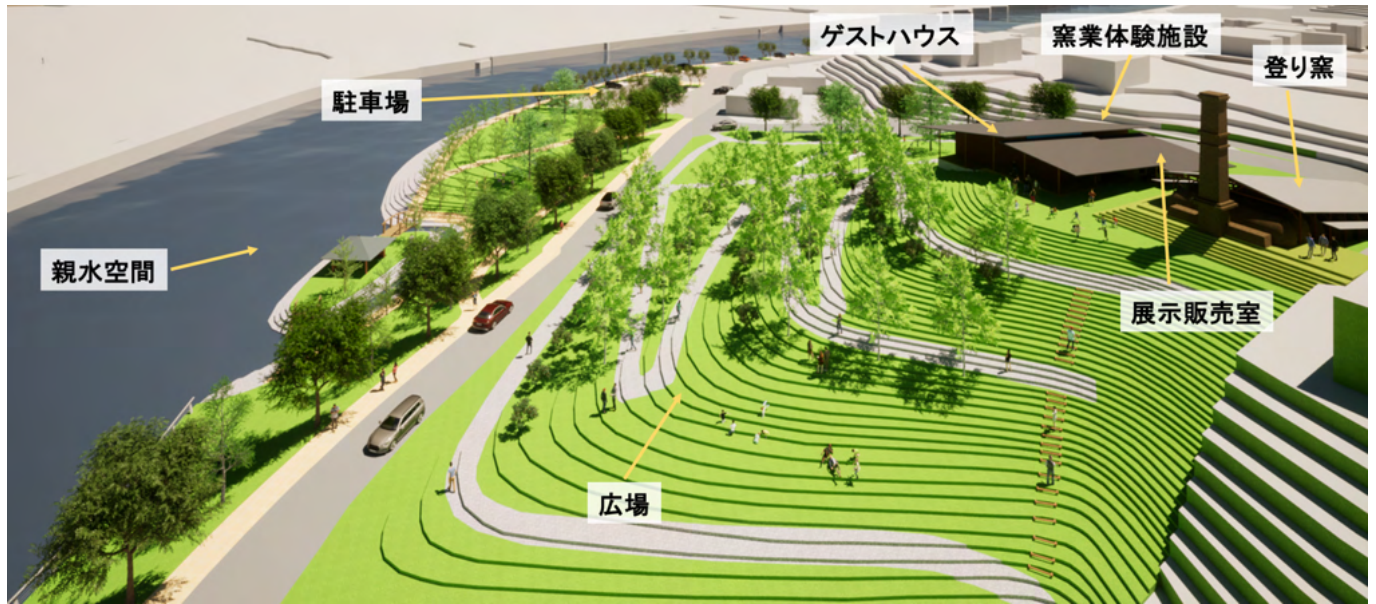


図4 完成予定図

4. 設計方針

- 1) 登り窯内部の空間とその周辺に人を呼び込む
 - ・登り窯を活用したカフェ・手びねり空間の創出
 - ・窯業体験施設、展示販売室、ゲストハウスの創出
 - ・学びや体験、交流の機会の場の創出
- 2) 丘陵地の高低差を活かす
 - ・水辺から登り窯まで緩やかにつながる広場・親水空間の創出
 - ・高低差を活かした視線を遮らない空間の創出
 - ・緑陰空間の創出

5. 設計

登り窯周辺に窯業体験施設、ゲストハウス、カフェを新設し、周囲の3方向の道路から登り窯まで緩やかにつながる広場を設計する。また、観光客で賑わう場所を提案する。

道路から緩やかに水面につながる親水空間を設計する。観光客のみならず地域住民が日常的に利用できる交流拠点を提案する。広場と親水空間の勾配を緩やかにすることで高低差を活かした視線・視界の変化を楽しむ空間の設計を行う。

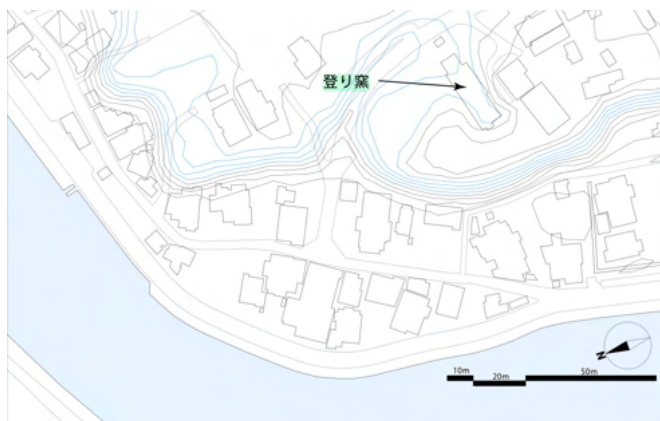


図5 敷地の等高線（現状） 出典：国土地理院基盤地図情報

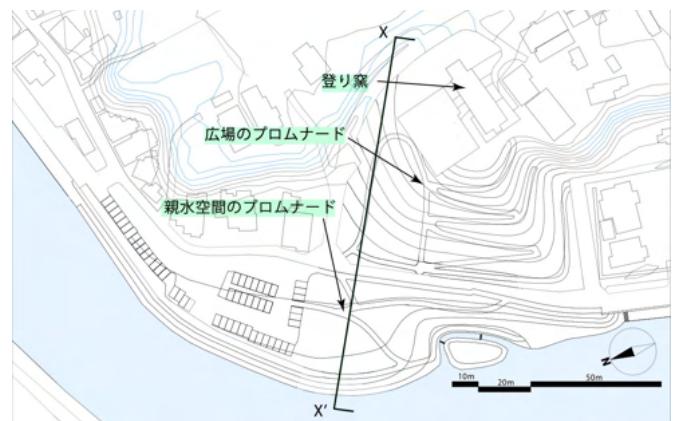


図6 敷地の等高線（計画）



図7 広場・親水空間の X-X'断面

1)建物の配置

登り窯に隣接する形で窯業体験施設、ゲストハウスを設ける。登り窯内部から観光客を誘い込むため、隣接する形としている。

また、ゲストハウスを丘の上に設けることで滞在者は水辺まで緩やかにつながる広場と登り窯を見下ろすことができ、敷地全体の景色を楽しむことができる配置とした。

2)カフェ空間

登り窯内部には、手びねり空間とカフェを新設する。登り窯の煙突の下部に窯を設けるため、上段部分にカフェ。下段部分に手びねり空間を設けている。また、カフェスペースは客席から窯を眺めることができるように開口部を設けており、一体的な空間とした。



図 8 カフェ空間

3)手びねり空間

幾度となく直火にされされてきた赤褐色の内壁を楽しむことが可能な手びねり空間を創出する。窯業体験で人気の高い手びねり空間を設けることで、体験者が登り窯内で過ごす時間が長くなり、登り窯の歴史や価値を体感できる空間を設けた。



図 9 手びねり空間

4)ゲストハウス

観光拠点として、登り窯の景観を楽しむことができるゲストハウスを新設し、窯のまちならではの体験をする。短期滞在者は、手びねりや登り窯内部の

キッチンで料理を楽しむ事が可能である。また、長期滞在者は粘土から容器が完成するまでの手びねり、乾燥、高台削り、釉薬、焼きまでの一連の体験をすることが可能である。この滞在期間に合わせた体験を可能にすることで、窯業初心者から上級者までの集客を図る。

5)展示販売室

観光客とゲストハウス滞在者、地域住民の賑わいの場とするため、内部の活動が目に見えるガラス張りの施設とした。ここでは、職人やゲストハウス長期滞在者が作成した陶器の販売が自由にできる空間としている。ゲストハウス長期滞在者が販売できるスペースを設けることで、初心者でも楽しむことができる空間を設けた。



図 10 展示販売室の内観



図 11 登り窯と展示販売室

6)広場

コの字形の3方向の道路から登り窯までを緩やかな傾斜で繋ぐことで、登り窯・窯業体験施設・ゲストハウスが視線に入るように設計した。傾斜は15～30%となっており、傾斜が30%の場所には階段。21%の場所には登り窯まで蛇行したプロムナードを設けるなど、それぞれの傾斜に合わせて来訪者が登り窯までのアクセスを楽しめるように計画した。

6.1)広場のプロムナード

駐車場から登り窯までの2種類のプロムナードを

設けた。1つ目は、登り窯までの動線を蛇行させ、斜面からの風景を気長に楽しむことができるプロムナードを採用する。敷地の高低差を利用し、散策する人の視線を遮らないように植栽を配置した。(図13) 2つ目は、親水空間、登り窯、駐車場に接続できるように環状に配置した。(図12)

複数の登り窯までのアクセス路を設けることで、来訪者自身が登り窯までの行き道を選ぶことができ、地形の高低差を楽しむことが可能である。

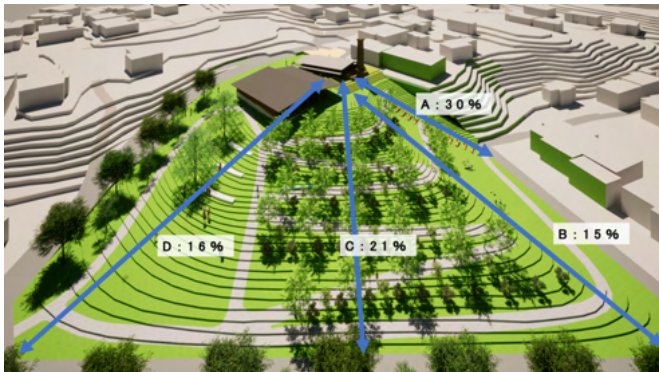


図12 広場の勾配

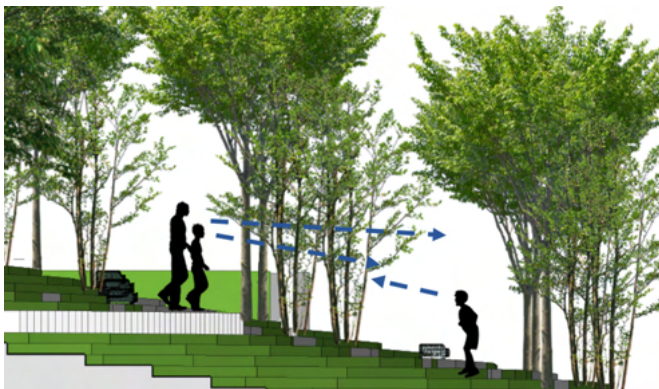


図13 視線のコントロール



図14 広場のプロムナード

7)親水空間

道路からの圧迫感を和らげるため、道路沿いに高木を7~8m間隔で配置している。水辺まで緩やかにつながる地形とすることにより、水辺とのつながりを強めた。これにより、観光客のみならず近隣住民の交流拠点、散歩道、子供の遊び場、憩いの場となることを望む。

7.1)親水空間のプロムナード

水辺沿いと道路沿いの2種類のプロムナードを設けた。登り窯までのアクセスのために利用する人、親水空間を利用する人の用途で分けており、両側に木々を配置し、緑陰空間を楽しめる空間とした。



図15 親水空間のプロムナード

8)駐車場

親水空間の高低差と合わせるため、平らな土地ではなく、緩い勾配の斜面に駐車場を設ける。駐車場の勾配は、3.6~5.5%となっており、隣接する親水空間の地形に合わせるだけでなく、雨水の排水を期待することが出来る。

また、5台おきに植栽のスペースとすることで、自然豊かな周囲の景観と調和する設計とする。



図16 駐車場

9)植栽・植樹

四季を通じた様々な花や山陽小野田市の里山の景色を再現し、風景を楽しみながら回遊できる植栽・植樹を配置する。高木には、市の木であるクロガネモチなどを植えることで周囲の景観と調和させる。

参考文献

- 1) 山陽小野田市 HP
(<https://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/>)
- 2) 山陽小野田市 ふるさと文化遺産「窯のまち」
(<https://www.city.sanyoonoda.lg.jp/site/bunkazai/kamanomati.html>)